

男女3人制になって最初の全日本リレー。各地域から多数のチームが激突するなか、選手権を制したのは、男子・東京都、女子・京都府。

2004全日本リレー
オリエンテーリング選手権大会
2004年1月9日(日)
埼玉県滑川町武蔵丘陵森林公園

さすが世界選手権組

早いレース展開だった。武蔵丘陵森林公園はしっかり管理された里山。遊歩道や小径の発達したトレイン。少ないアップ。冬枯れた植生。全てが高速レースを可能にした。

この高速レースを制したのは、男子が東京都、女子が京都府だった。

今年から男女選手権クラスでも3人リレー制に移行した。今までは4人の選手の質を揃えることが最重要だったが、3人制ではひとりひとりの選手の能力が成績に大きく影響するようになった。

東京男子のメンバーにはスプリント系に強い山口大介選手がいる。山口は2004年夏にスウェーデンで行われた世界選手権のスプリント種目で、予選を突破しファイナリストになっている。

11月に名古屋の大高公園で開催されたパークワールドツアーで、パシ・イコネン選手と互角に張り合っている姿を見た人は多いだろう。



男子選手権を制した東京チーム
山口・篠原・鹿島田

京都女子メンバーには宮内佐季子選手。彼女も2004年世界選手権のスプリント種目で予選を突破した選手である。

名古屋でのパークワールドツアーでも、8位に食い込む健闘を見せている。今シーズンは中国で行われたパークワールドツアーに参戦したり、国体山岳競技で優勝したり、西日本大会では男子に勝ってM21Aで優勝したりなど、大暴れしている。



女子選手権優勝の京都チーム

まだ手探り 全日本リレー

全日本リレー選手権という名のとおり、全国都道府県の選手が地元の意地をかけて日本一を競いあう場を提供することが、全日本リレー大会の主目的だ。選手たちは多くの難関を突破しこの舞台に立つわけだが、近年はその内容が少しずつ変化している。

その一つは、選手権クラスへの複数チームのエントリーである。数年前までは代表チームは各都道府県からは1チームしかエントリーできなかった。このため、各都道府県ではメンバーになるための厳しい選考会が行われていた。

しかし、現在の全日本リレーの選手権クラスは複数チームがエントリー可能となっている。つまり参加条件での各都道府県の選考は不要となっている。あるのは、都道府県内のチーム編成を決める選考会だけなのだ。

じゃあどのチームがその都道府県を本当に代表することになるのだろうか？それは現実のレースの結果、同一都道府県の中で最も成績の良かったチームの順位に総合ポイントが与えられる。

つまり、全日本リレー大会そのもの

が、その都道府県にとっての最終選考会になっているのである。

こうなると、都道府県の希望する戦術は当然変わってくる。同じクラスに多数エントリーされているメンバーの中から、当日のコンディションに合わせてベストチームを組みなおしたい。対抗単位が都道府県なのだから、そう考えるのは当然である。

実際にこのようなケースが今回発生した。北海道は男子選手権に2チームを送り込んだ。しかし選手の病気や都合により、北海道の選手権チームは2チームとも崩壊してしまったのだ。

2チームをひとつにまとめれば、登録選手だけで1チーム組めたが、それはルール上認められなかった。今回の北海道チームはオープン参加として出走した。



全日本リレー大会選手権クラススタート
会場の芝生広場はいい天気に恵まれた

もうひとつ、表彰対象チームについても興行的な疑問が残る。

都道府県で最も上位のチームだけに総合ポイントが与えられる・・・これはいい。しかし各クラスの表彰に関しては2004年度までは複数チームが表彰される都道府県がある。これも一考してはどうだろう。

もちろん都道府県のB級選手にとっ

て、表彰されるチャンスがあればモチベーションは高まる。たとえば東京部の二軍選手が一軍選手に勝って総合ポイントを獲得することは難しいかもしれないが、表彰台なら十分に狙えるのだ。

しかしながら、そのぶん、他の都道府県チームが表彰から外れてしまう。もちろん二軍に負けてしまう地方の選手がふがないと言えればそれまでだが、都道府県対抗を標榜する大会であるなら、都道府県の最高位のみを注視するべきだろう。

ひとつの選手権クラスに2チーム以上を送り込める都道府県は、それだけで失格に対するリスクが大幅に軽減できている。都道府県の監督としてみればこれは大きい。

どんなに選手の能力が高くても、些細なミスで失格になってしまうチームは少なくない。タイムがどんなに良くてもチームが失格になれば成績は付かない。

リアルタイムでバトルを展開するリレーでは、実際に失格になるチームが後を絶たない。当事者にはもちろん悪気はないが、あせるあまり地図を取り違えたり、隣接コントロールにひっかかったりなど、さまざまな失格リスクがリレー大会には転がっている。

都道府県選手団としてみれば、複数チームをエントリーさせることができれば、この失格リスクをほとんどゼロにすることができる。最悪成績が付かないということはまず考えられない。これだけでも複数チームをエントリーさせるメリットがあるのだ。

団体競技のチカラ

全日本リレー大会は各都道府県組織の目的意識を共有化し、組織を活性化させることができる潜在能力を持っている。本当はピュアな選手権大会を望みたいところだが、選考され絞り込まれた選手だけ参加する大会にしてしまうと、資金的に立ち行かなくなっている。

そこで多くの人に参加してもらえる

よう複数チームに選手権の門戸を開いたが、そのことで、全日本リレーの性格はおのずと変わってきているのである。これに即した運用を行われなければ、全日本リレー大会の魅力は色褪せていきかねない。

建前上はひとつの都道府県から100チームエントリーすることだって可能だ。しかし現実には多い都道府県でも1クラス数チームに留まっている。

「もう、さばき切れない、参加者数を制限しよう」というコトが真剣に検討されるくらい、大盛況になる日を夢見たい。



全日本リレーでタッチを待つ筆者・木村

森林公園で3日間！

筆者・木村は全日本リレー前日から3日間森林公園に通いつめた。

普段の森では見ることができないサイクリングロードや立体交差、植え込みや幅広い遊歩道、さらには吊橋などを学習したモデルイベント。

長野1走・金田の中間トップと、長野女子の6位入賞に沸き、自分もベストレースだった全日本リレー。

難度の高いセッティングに頭を悩ませた全日本トレイル大会。

ライバルと最後まで競り合って競り合って競り合い負けた、埼玉県OL大会。

3日間で4イベント。初めての森林公園だったが、素晴らしい天気の中、しゃぶりつくすほど堪能した。埼玉県の皆さん、素晴らしいイベントをありがとう。

(木村佳司)

全日本リレー大会成績

男子選手権

- 1 東京 1 1:54:14
(山口大助 篠原岳夫 鹿島田浩二)
- 2 茨城 1 1:58:17
(高橋雄哉 小泉成行 佐々木良直)
- 3 神奈川 1 2:00:17
(円井基史 稲津隆敏 紺野俊介)

女子選手権

- 1 京都 1 2:00:49
(寺嶋貴美江 宮内佐季子 番場洋子)
- 2 埼玉 1 2:01:12
(田島利佳 皆川美紀子 金子恵美)
- 3 東京 1 2:08:25
(深澤博子 志村直子 渡辺円香)

男子ジュニア

- 1 東京 1:49:13
(今井直樹 山崎貴彦 北崎茂)
- 2 京都 1:52:37
(大西康平 津國真敏 高田智実)
- 3 埼玉 1 1:52:42
(海老成直 古山泰也 渡邊裕己)

女子ジュニア

- 1 東京 2:01:43
(村山郁代 築山絢 橋本陽子)
- 2 神奈川 3 2:12:04
(栗原真季子 井手恵理子 笠原綾)
- 3 宮城 2:13:47
(門間幸恵 酒井秋穂 柳川理恵子)

男子シニア

- 1 東京 1 2:03:10
(柳澤貴 菅原琢 加賀屋博文)
- 2 埼玉 1 2:04:44
(羽鳥和重 早野哲郎 岩倉毅)
- 3 埼玉 2 2:09:45
(福田雅秀 斎藤英之 澤田晴雄)

女子シニア

- 1 千葉 2:20:28
(小林正子 長谷川恵子 宮本知江子)
- 2 埼玉 1 2:21:35
(高野由紀 澤田慶子 清水容子)
- 3 東京 2:42:38
(酒井か代子 片岡由起子 加賀屋寿理)

男子ベテラン

- 1 三重 1 2:03:37
(伊藤誠厚 小八重善裕 伊藤哲夫)
- 2 埼玉 3 2:04:47
(奥山景德 山崎直一 久保田優)
- 3 神奈川 1 2:10:23
(尾上秀雄 富樫勉 清水潔)

女子ベテラン

- 1 愛知 2:29:31
(古澤久美 石田美代子 三井由美)
- 2 神奈川 2:55:09
(高橋明美 今井栄 大場節子)
- 3 埼玉 3:23:39
(海野とみ子 加藤伶子 田中洋子)

